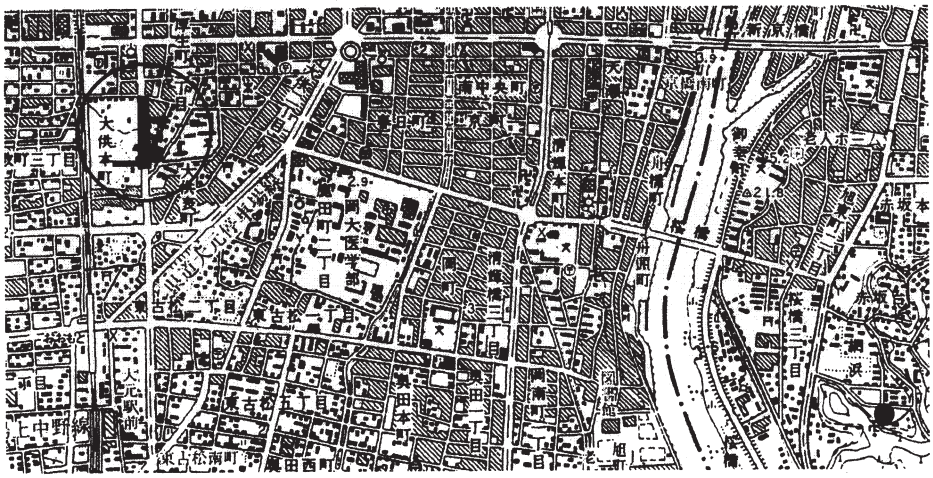
遺跡紹介

大供本町遺跡

高橋伸二

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

大供本町遺跡は岡山市北区の大供本町から大供表町付近に広がる遺跡です。区画整理事業に伴い、2005年から2010年までに４次にわたり調査が行われましたが、この付近は藤原宗家が代々受け継ぐ殿下渡領のひとつである「鹿田庄」の一部と見られます。

調査地周辺では現在も地割りが東に15度ほど傾いていますが、第１次の調査ではこの地割りが10世紀頃まで遡る可能性が明らかになりました。また、この遺跡では古代から近世まで連綿と集落が営まれており、各時期の建物跡や井戸、溝などが多数検出されました。

第２次調査では第１次の調査で確認された状況がさらに追認されたほか、８世紀中頃の井戸が検出され、その木枠は正方位を示していました。さらに他の９世紀頃の遺構も正方位を示していることから、９世紀後半以前には鹿田庄特有の地割りが見られないことが明らかとなりました。また、調査区東側の河道部（相模川）からは９世紀頃を中心とする多量の墨書土器が出土したことから、これらの遺構は一般的な集落ではなく、旭川河口部に営まれた港湾関連施設である可能性が検討されます。

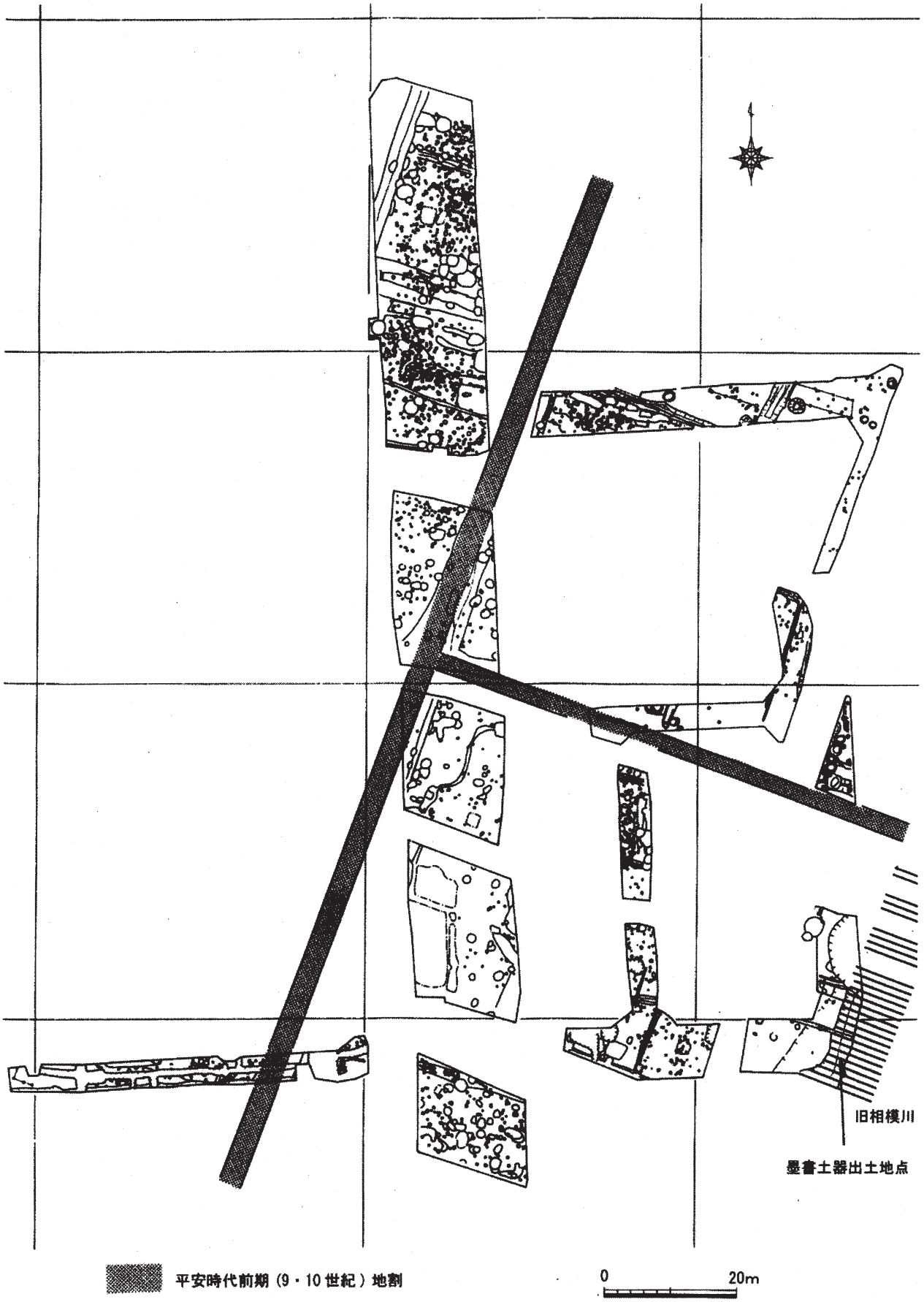
第３次と第４次の調査では中世から近世の遺構が中心となって検出され、中世の居館とそれに付随する集落（町屋）が検出されました。しかし、この居館も城下町が整備される17世紀前半には姿を消し、大供本町遺跡は城下町近郊の農村に生まれ変わったものと考えられます。

【文献】

『岡山市埋蔵文化財センター年報 6』岡山市教育委員会　2007年
『岡山市埋蔵文化財センター年報 8』岡山市教育委員会　2009年
『岡山市埋蔵文化財センター年報 9』岡山市教育委員会　2010年
『岡山市埋蔵文化財センター年報 10』岡山市教育委員会　2011年

【交通】

岡電バス・両備バス 「水道局前」「厚生町商工会議所前」バス停下車　徒歩５分



大供本町遺跡調査区全体図

（第１次～第４次）